



訪問診療・往診専門

医療  
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ

通信

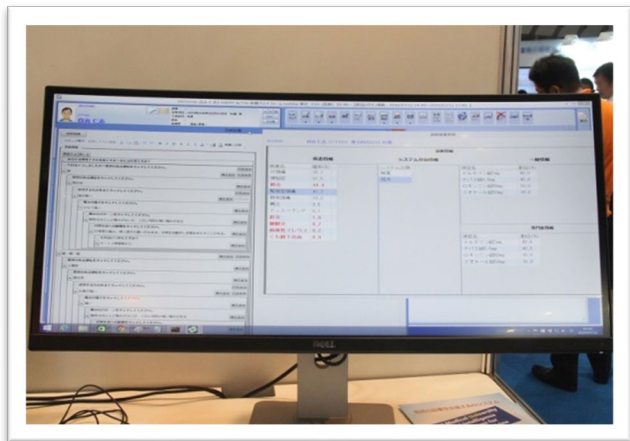
No. 15

(平成 29 年 8 月)



## 人工知能（AI）と遠隔医療と在宅医療

最近、AI（エーアイ）という言葉をよく耳にするようになりました。AI が囲碁名人や将棋名人に勝ったというニュースを聞いたことがあるかと思います。実は、「医療」の分野でも、少しずつ実用化に向け AI の試験が行われています。例えば、経験の少ない医師が、症状から AI に診断名の候補をあげてもらおう。こんな試みも始まっています。特に、離島やへき地などの現場では、病院までの距離があるため、救急患者さんを搬送するかしないかを決断することは、医師にとって大きなストレスです。AI の補助診断は、医師、患者さんにとって非常にメリットです。また、「画像診断」の分野では、いままで医師の読影だけでは見落とされていた病気を拾い上げる能力が有用とされています。小さな癌も早期に発見できる可能性があり、早期発見、早期治療につながります。



人工知能によって疾患確率、推奨検査、処方情報などを提示



タッチパネルを活用した対話型問診

「見守りネット」などの開発もすすんでいます。ひとり暮らしの方が、長い時間家にいない、または、家のなかでの動きがないことを感知した場合、家族に知らせる、病院に知らせるなどの機能をつけることで、安否確認に役立てることができます。さらに、血圧、脈拍の値を測定すれば、主治医や担当看護師にデータを送信し判断してもらうこともできます。“遠隔医療”は、テレビ画面などを通じて対面診療する医療です。この分野も臨床への導入が検討されています。通院が困難な患者さんや受診する時間がもてない忙しい方には、朗報です。これらを利用した“在宅医療”は、ますます進化し、患者さんにさらなる安心を届けてくれることになるでしょう。

ただ、AI がどんなに進化しようとも「医師と患者のコミュニケーションは将来も必要不可欠」というのが、多くの医師の一致した意見です。状況判断も AI は弱点と言われており、人間の力は必要です。いろんな問題点を洗いだし、それを状況に応じて判断する能力は、人間に求められます。AI も間違いをおこすことがわかっています。最終判断は人間がすべきであり、あくまでも AI は補助的立場です。技術が進歩するたびに、人間のできることが問われますが、これからは AI と人間（医師）が共生していく時代になっていくことは間違いなさそうです。

(院長 笠松 哲司)



〒770-0932 徳島市仲之町 2 丁目 8 番地 2

TEL:088-679-6393

FAX:088-679-6394

HP: <http://www.kasamatsu-zaitaku.net>



訪問診療・往診専門

医療  
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ

通信

No. 15

(平成 29 年 8 月)

毎度のことながら、今月も締め切り目の原稿です（笑）。

今日は大型の迷走台風 5 号が四国に上陸しましたが、皆さまのお住まいの地域では大きな被害はございませんでしたでしょうか？また、毎日酷暑が続いておりますけれども、体調など崩されてはおりませんか？

台風が上陸する直前、8 月 5 日から 8 月 6 日と京都で開催された日本小児科学会主催のインテンシブコースを受講してきました。2 日間で 1 時間半の講義を 5 コマ受講するものでしたが、選択した地域総合小児医療の講義で印象に残ったことがありましたので、少しご紹介したいと思います。

日本人の受診行動を調査したスタディで、対象者 1000 人のうち、何らかの体調異常を訴える人は 862 人。そのうち、地域の診療所を受診する人は 232 人。病院を受診する人は 88 人。救急外来を受診するのは 10 人。大学病院外来を受診するのは 6 人。在宅ケア・訪問診療を受ける人は 3 人。大学病院に入院する人は 0.3 人。1000 人のうち、たったの 0.3 人です。

何が言いたいかというと、医学生や研修医は大学病院で研修を受けることが多いのですが、大学に入院しているのは高度な専門的医療を要する患者さんで、数も限られている。地域の診療所に行けば、その 800 倍近くの患者さんがいて、数多くの患者さんを診ることで common disease（よくある疾患）が理解できるようになるということです。限られた患者さんだけを診るのではなく、地域に出ることで多くの患者さんの背景を理解できるようになり、それが社会的環境を改善するための社会的処方につながるというものでした。

それはまさに、今の私が小児在宅医療に関わって毎日実感していること。学生さんや、病院の主治医、メディカルスタッフに在宅療養の現状を知ってもらうことは非常に大切なことだと再確認した次第です。

徳島は今週末から阿波踊りですね。昨年、私は子供たちと一緒に「お盆の間は憂き世を忘れて踊り明かす」うきよ連に入連しました。今年は初棧敷です。イオンモールなどでも踊りますので、へたっぴなのがいたら応援してやってくださいね。

まだまだ暑い日々が続きますので、どうぞ皆さまご自愛くださいませ。

(小児科 笠松 由華)



京都・二条城二の丸庭園

